

MAYUMI NAMATAME



なまため・まゆみ ●昭和56年12月生まれ。赤坂東野字広畑在住。主婦。趣味は「キャラ弁」作り。中学時代恩師の言葉「苦しいときは前進している」が心に残っている。

私が鮫川村に嫁いってから六年が経ちました。初めは、鮫川村での生活に不安もありましたが、パレーボールでの交流や家族ぐるみでたくさんの人と出会うことができ、支えられ、今では女の子三人の母としてとてもうれしく、幸せを感じながら毎日を過ごせるようになりました。

村民【随想】リレー — 185

生田目真弓さん

出会いと夢

卒業後、埼玉県桶川市にある美容室に就職し、山野美容専門学校で美容師免許を取得しました。技術職は厳しい面もありますが、とても幅広く楽しい仕事でもあり、たくさんのお客さまに出会いもあります。ブランクもありましたが、美容室に戻り今までの経験と技術を生かし、お客様の笑顔がたくさん見られる店を目標に頑張りたいと思います。

句のものの旨いと云われ採り来ては落の皮剥く香りを愛でつ 鈴木イミ子
嫁ぎ先農家で良かったと今更に感深くする 野菜畑に 佐藤 春枝
畑には畑のいのち細やかに手入れを待ちかがやける土 矢吹 定子
朝な夕花に囲まるわが屋敷 増えつ轉る小鳥の群れも 須藤 幸子
鈴生りの柿の実今年も挽がるなく土手の地肌を染めて落ちつく 水野 珠子
辿りゆく山路に匂う百合の花 蝶 関根 瑞恵

さめがわを 彩る集い 21 支え合いながら美しいハーモニーを奏でる



コーラスさめがわ

齋須信子代表/会員8名

コーラスさめがわの歴史は古く、約四十年前に結成されました。これまで、地元で活動してきた音楽の先生の指導で活動を続け、現在は塩井和歌子さん(棚倉町)の指導を受けながら日々練習をしています。今年、新たにメンバーが加わり、さらに活気づいています。メンバーは村内に限らず白河市など村外からも参加し、少数精鋭でお互い支え合いながら美しいハーモニーを奏でています。二年前かけて全員で曲を作り上げていき、きれいにハモれたときが気持ちいい」と魅力を話します。また、うまくできた瞬間をみんなで共有できる幸せがあるといいます。

どのような報いあるうと堅実に生きて些かも悔いなる日々 満井 清乃
一日も欠かさず通う畑には 土の光りて培う 野菜 坂本 伊紀
人生をほがらほがらに生きよとぞ告げて耀う 朝茜雲 一平子
曾孫よりねだられサツマの芋堀に詫々と掘りいる園児に交じり 石井 幸子
長寿会メインの湯入り研修も盛會裡にすみ次なる事業に 須藤シツエ
孤独でもいじけちやならぬ世の恩義人の情が身にしみるとき 松本 一郎
戦災を受けしわが身をいたわりて接してくれたる人々忘れず 前田喜三子
友愛は金より大事な宝物病氣し人生の意味を悟りぬ 関根ヨネ子
稲スズメタ暮れ時を賑やかに送電線にと行きつ戻りつ 藤田千代子
老いたれば後を見ずしてこの先を楽しまねばと友と微笑み 関根ハナヨ
夕陽うけ柿の実紅く映えいずる食欲さそう秋のひとこま 関根 富久
館山に紅葉狩りして思いみる真夏の汗せし色滲みいづるを 板橋 源良
小雨降る淋しき秋の庭隈に紅きさつきの返り花咲く 関根キヌ子
汚染水漏れや放水深刻化耳目に触れくる連日の如く 矢吹 一二
山里の刈田は点々と狭間なる作付放棄地の草叢目立つ 北條 平

Book

図書の缶詰

図書館からおすすめの本をご紹介します
鮫川村図書館 ☎ 29-1150

神去なあなあ日常

(三浦しをん著、徳間書店)

横浜育ちの平野勇気が高校卒業と同時に放り込まれたのは、三重県の山奥にある神去村。1年は帰れないという。100年単位の山仕事をする村人たちの口癖は「なあなあ」。四季の移ろい、48年ぶりの大祭…村での1年間を描いた1冊。

夢に向かって泳ぎきれ

(入り江陵介監修、あかね書房)

「ぼくを支えてくれた人たちにぼくの泳ぎで笑顔にしたい」。何度も悔し涙を流してオリンピックのメダルを手にした入江陵介選手、努力する天才といわれている。目標に向かって努力することの大切さを分かりやすい言葉で教えてくれる。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日

若者の広場 No.108

Young Plaza

塩田弘樹さん

■今、夢中になっていることは何ですか？

車いじりと舗装されていない山道などを車で走るクロスカントリーにはまっています。休みの日は、友達と車いじりをしていることが多いです。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

今年、水上バイクの免許を取ったので、来年の夏から始めたいです。いずれは、水上バイクを買いたいと思っています。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うこと

とはありますか？

鮫川村は空気がきれいで自然が豊かです。また、気軽に話しかけてくるようなフレンドリーで気持ちのいい人が多いのも鮫川村のいいところだと思います。

■鮫川村に要望などはありますか？

このまま変わらないでほしいです。コンビニがなくても、それに慣れているので不便に思ったり困ったりすることはありません。

次は水野暁隆さん（赤坂東野字官代在住）の予定です。

フレンドリーな人が多い村



しおだ・ひろき
平成4年1月20日生まれ 21歳
A B型 みずがめ座
趣味は車いじり
石井草履関ノ上在住

■マラソン記録会・給食試食会

練習の成果を発揮し、参加者全員が見事完走しました。また、給食は「いただきます」事業の補助を受け、地元福島県産、鮫川村産の食材を利用したメニューでした。保護者の方




マラソン記録会
給食試食会

■鮫川村合同修学旅行

青生野小と合同で、会津若松方面へ行きました。鶴ヶ城や飯盛山などの観光名所を中心に、班別に自由散策を行い、思い出に残る楽しい旅行となりました。



村合同修学旅行

学校だより

(110)

鮫川小学校編

■少年主張大会・音楽発表会
六年の須藤楓さんと五年の北條綾乃さんによる作文発表や県大会で銀賞を獲得した合唱部の素晴らしい発表がありました。

■鮫川小、充実の秋

マラソン記録会の一位入賞者は次のとおりです。

【二年】	男子	小松琉眞
【二年】	女子	水野谷花菜
【二年】	男子	水野陽亮
【二年】	女子	渡邊咲来
【三年】	男子	坂本大夢
【三年】	女子	鈴木結
【四年】	男子	高野敦輝
【四年】	女子	須藤玲奈
【五年】	男子	円井純一
【五年】	女子	北條佑奈
【六年】	男子	関根清也
【六年】	女子	北條七海

啓さんが子どものころは、自分が履く草履は自分で編んでいたといひます。



昔 は冬期間の仕事として農家が集まって作っていたという「わら草履」。農家の子どもは、誰に教わるでもなく見よう見まねで作りを覚えました。しかし、今では村内で作れる人も数えるほどになってしまいました。その一人が矢吹啓さんです。

「昔の人が基礎を作って、自分たちはそれをまねているだけ」と先人の知恵に感心しています。

草履を編む前の準備が大切と話す啓さん。わらをぬらし一晩寝かせたあと、しっかりとわらを叩きやわらかくします。準備ができたわらをもじり草履の芯を作り、足にかけます。編み始めは「鼻頭」。ここで草履の形がほとんど決まってしまうので、きちんと

編まないときれいに仕上がりません。個性が出るころでもありません。

少し編んでは芯を引っ張り、草履を固く締めていきます。編んで余ったわらを草履の下に引っ張り、さらに固く締めるのが啓さんのひと工夫です。最後に、履き心地が滑らかになるように、わらで草履の表面をこすって完成です。

わら草履
矢吹 啓さん
やぶき・ひらく／赤坂西野字大塩／91歳

**わら草履作りは冬場の仕事
先人が築いた基礎を現在に伝える**



70年以上作り続けている啓さんでも、1足作るのに約半日。手作りなので1つとして同じものはありません。

あなたの 光る技
キラリ
Vol.17